

02-01-07-936 行財政改革推進事業

◇事業の位置づけ等

| | | | | | | |
|---------------------------|--|-------------|---|---|---|---|
| 事務の種類 | 自治事務 | 基礎となる法令 | — | | | |
| 第五次総合計画 基本計画体系 | 目指すまちの姿 | — | | | | |
| | 政策 | — | — | | | |
| | 施策 | — | — | | | |
| | 関連する施策 | C1-1 | — | — | — | — |
| 関連する個別計画 | 多摩市行財政刷新計画(平成28年～31年度) | | | | | |
| 関連する報告書など | — | | | | | |
| 事業開始の経緯、 これまでの見直し・改善など | 平成29～30年度は、民間のノウハウを活用し、BPR(ビジネス・プロセス・リエンジニアリング)の手法を用いて、業務の現状分析とあるべき業務フローへの転換に取り組んだ。また、平成30年度には、公民連携手法により、RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)活用の実証実験を行った。 | | | | | |

◇令和元年度の事業の実施内容

事業開始の時期

平成29年度

| | |
|--------------------|--|
| 事業の目的、 令和元年度の目標 | 行政サービスのあり方やしくみそのものを改革するための取組「しくみの転換」に重点を置いた行財政改革を推進し、持続可能なまちづくりを実現していく。 令和元年度は、国庫補助金及び都補助金を活用し、RPAの本格導入を進め、自動化による業務の効率化及び職員の事務負担軽減・所要時間削減を図る。 |
| 予算の執行方法 | ・RPA導入支援業務委託料 ・OCRソフトウェア及びRPAソフトウェアライセンス使用料 ・OCR専用端末購入費 |
| 事業の成果 | BPRの手法を用いて、保育園入所審査業務の分析、フロー作成を行った。また、RPA導入の取組では、業務委託やRPAエバンジェリスト(所管課でRPAツール導入を主導する担当者)育成の効果により、当初見込を上回る8業務にRPAを導入し、業務効率改善につながった。 |

◇事業にかかる費用

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
|------------|---------|--------|----------|----------|----------|---------|
| 決算額(単位:千円) | 0千円 | 0千円 | 9,180千円 | 10,832千円 | 7,790千円 | |
| 事業にかかる実コスト | 0千円 | 0千円 | 13,586千円 | 15,032千円 | 9,077千円 | |
| 内 訳 | 直接経費 | | | | | |
| | 国庫支出金 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 2,596千円 |
| | 都支出金 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 2,698千円 |
| | 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | その他特定財源 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | 一般財源 | 0千円 | 0千円 | 9,180千円 | 10,832千円 | 2,496千円 |
| | 間接経費 | | | | | |
| 職員人件費 | 0千円 | 0千円 | 4,406千円 | 4,200千円 | 1,287千円 | |
| 《従事人員数》 | 0.00人 | 0.00人 | 0.50人 | 0.50人 | 0.15人 | |
| その他の人件費 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |

◇成果指標

| 指標の種類 | 指標について | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|------------------|--|----|----------------|-------------------|-------------------|
| 活動指標 (アウトプット) | 現状分析・改善機会の抽出等に取り組んだ業務の数 | 目標 | 2業務 | 5業務 | 9業務 |
| | | 結果 | 2業務 | 9業務 | — |
| 成果指標 (アウトカム) | 上記の業務を見直すことで、行財政運営手法の転換、内部改革の推進を図り、対価として市民満足度の向上につなげる。 | 目標 | 31年度以降に業務改善を図る | 内部事務効率化取組のため設定しない | 内部事務効率化取組のため設定しない |
| | | 結果 | 31年度以降に業務改善を図る | — | — |

特記事項

「活動指標について」 ・平成30年度の値は、BPR手法による取組事業数
・令和元年度の値は、上記とRPA導入事業数を合算したもの

◇自己点検

| の 成 果 推 移 指 標 | 今後の見通し | | 方 今 向 後 性 の | 今後の課題や方向性に関するコメント |
|---------------------------------|--------|-------------|----------------------------|-------------------|
| | 量 的 | 財 源 的 | | |
| N | N | N | イ | — |

<行財政改革推進事業>

◇ 執行状況及び成果等

1 執行状況

単位：円

| | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 |
|----------|-----------|------------|-----------|
| 委託料 | 9,180,000 | 10,832,400 | 5,170,000 |
| 使用料及び賃借料 | | | 2,395,800 |
| 備品購入費 | | | 224,840 |

2 執行内容

■委託料

件名：RPA ツール等の導入及びエバンジェリスト育成支援業務委託

概要：業務分析やシナリオ作成等の支援を受け、RPA^{※1} や OCR^{※2} の本格導入を進め、自動化による業務の効率化及び職員の事務負担軽減・所要時間削減を図った。また、所管課で RPA ツール導入を主導する担当者「RPA エバンジェリスト」の育成を行った。

■使用料及び賃借料

OCR ソフトウェアと RPA ソフトウェアの使用料

■備品購入費

OCR 専用端末 2 台の購入

※1 「Robotic Process Automation」の略。人の手で行っている定型的作業（システム操作やデータ入力処理など）を学習させることにより、人間と同じように操作を行うソフトウェア。

※2 「Optical Character Recognition」の略。手書きや印刷された文字を文字データに変換する機能。

02-01-07-937 市制施行50周年記念事業

※事業カルテ作成対象外事業のため事業カルテ及び診断書の作成は省略しています。
事業の概要については事業別歳出決算額一覧表をご覧ください。

◇事業の概要

令和3年（2021年）11月1日に迎える市制施行50周年に向け、記念事業等を実施する。

◇執行状況及び成果等

1 多摩市市制施行50周年記念事業基本方針策定（平成30年1月）

| | |
|---------|---|
| 記念式典 | 大きな節目を祝う市制施行50周年記念式典 |
| 記念事業 | 市主催事業・・・50周年冠各種事業やロゴマーク立案等 市民事業・・・市民が中心となり企画・実施 市民提案事業・・・市民団体や地域、企業等が実施し、市が後援・共催 広報・PRを行うシティセールス事業・・・周知、機運醸成、市のイメージアップ |
| 記念誌刊行事業 | 市制施行以降の多摩ニュータウンの変遷を中心とした市制施行50周年記念誌刊行 |

2 多摩市市制施行50周年記念事業基本計画策定（平成31年4月決定）

基本方針で定めた各種事業について、コンセプトや骨格を定め、実施内容を具体的に検討する上で基本とするもの。

| | |
|---------|---|
| 記念式典 | パルテノン多摩の大規模改修スケジュールと調整 市民が参加しやすいイベントとの組み合わせを今後検討 |
| 記念事業 | 市主催事業・・・「これまでの本市の50年を振り返り、積み上げてきたものを活用・再発見する事業」と「50周年をきっかけに未来につなぐ新たなまちの姿を見つける事業」をコンセプトに定めた。 市民事業・・・多様な世代に向けた発信力、表現力を備えたコーディネーターを中心に「みんなが一堂に集い乾杯する」や多様な年代の人が交流する「年の差フレンズ」、市民がテーマごとに企画を検討・実行する「市民ラボ」といった大まかな企画案が作成された。 市民提案事業・・・日ごろから市内で行われる地域の魅力を活かして様々な行事やイベントを「50周年」という一本の線で繋ぎ、一体感を育むことで、この街への愛着を醸成する。 PR・・・50周年キャッチコピー・ロゴマークを定め令和2年より周知展開予定。 |
| 記念誌刊行事業 | 記念誌構成案（章の構成、ページ割振り、執筆候補者）の選定 |

3 多摩市市制施行50周年記念市主催事業

応募した市職員で構成されたワーキングチームにより、市主催事業の企画、立案及び具体的な取組等を検討

4 多摩市市制施行50周年記念市民事業

| 年度（西暦） | 29（2017） | 30（2018） | 元（2019） | 2（2020） | 3（2021） | 内容 |
|-----------------|----------|-----------|-----------|---------|---------|----------------|
| 企画・検討等支援業務委託（円） | 165,474 | 1,017,753 | 1,987,524 | — | — | 市民中心事業の企画提案・実施 |

平成29年度は、コーディネーターを選定し、事業コンセプトを定めた企画提案を受領した。
平成30年度は、コーディネーターを中心に市民コアメンバーを招聘し、さまざまなアイデアをヒアリングし企画案を詳細化した。
令和元年度は、実行委員会を立ち上げ、実行委員会中心にNEWTOWN2019に出展するなど、これまで出てきたアイデアを実践し、更に具体的な企画案を作成した。

5 多摩市市制施行50周年記念誌刊行事業

| 年度（西暦） | 29（2017） | 30（2018） | 元（2019） | 2（2020） | 3（2021） | 内容 |
|--------------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|-----------------------|
| 記念誌作成業務委託（円） | 1,447,200 | 2,970,000 | 3,300,000 | — | — | 原稿執筆料、写真・資料整理、編集委員会運営 |

平成29年度は、写真等資料の整理を中心に実施し、章立てや執筆候補者案を作成した。
平成30年度は、章立てを確定し、執筆依頼が開始できるよう要領や表記方法を整理した。
令和元年度は、執筆依頼後に提出された原稿を元に内容やレイアウトについて検討した。

6 多摩市市制施行50周年記念誌作成準備委員会・編集委員会の審議内容

| <p>【作成準備委員会】 所掌：記念誌の編集の基本方針に関すること。 構成：5人以内（学識3人以内、在住・在勤・在学市民2人以内） 任期：平成29年3月29日から平成29年7月12日まで</p> | | |
|--|-------------|--|
| 回数 | 開催日 | 審議内容 |
| 第1回 | 平成29年3月29日 | (1) 会議運営に関する事項の確認について (2) 50周年記念事業、記念誌作成について |
| 第2回 | 平成29年5月24日 | 記念誌編集の基本方針について |
| 第3回 | 平成29年7月12日 | 記念誌編集の基本方針の決定について |
| <p>【編集委員会】 所掌：記念誌の内容・構成の検討、監修、執筆作業の進行管理に関すること。 構成：6人以内（学識2人以内、市民団体推薦市民2人以内、在住・在勤・在学市民2人以内） 任期：平成29年10月27日から令和4年3月31日まで</p> | | |
| 回数 | 開催日 | 審議内容 |
| 第1回 | 平成29年10月27日 | (1) 会議運営に関する事項の確認について (2) 50周年記念事業、記念誌作成について |
| 第2回 | 平成30年1月12日 | 記念誌の構成について |
| 第3回 | 平成30年10月12日 | 記念誌の構成について |
| 第4回 | 平成31年1月25日 | (1) 記念誌の構成について (2) レイアウトについて (3) 執筆要領について |
| 第5回 | 平成31年3月29日 | (1) 記念誌の構成について (2) 執筆要領について (3) 執筆依頼状況について (4) レイアウトについて |
| 第6回 | 令和元年5月31日 | (1) スケジュールについて (2) 多摩市市制施行50周年記念事業基本計画について (3) 執筆依頼状況について (4) レイアウトについて |
| 第7回 | 令和元年10月4日 | (1) スケジュールについて (2) 執筆依頼状況について (3) レイアウトについて (4) 地図の制作について (5) 作成冊数について |
| 第8回 | 令和2年1月29日 | (1) スケジュールについて (2) 執筆依頼状況について (3) レイアウトについて (4) 地図の制作について |

事業カルテ (元年度決算)

企画課

02-01-07-954 若者のまちづくり推進事業

◇事業の位置づけ等

| | | | |
|---------------------------|--|-----------------------|-------------------|
| 事務の種類 | 自治事務 | 基礎となる法令 | — |
| 第五次総合計画 基本計画体系 | 目指すまちの姿 | みんなで楽しみながら地域づくりを進めるまち | |
| | 政策 | C1 | 地域で支え合い、暮らせるまちづくり |
| | 施策 | 2 | 市民主体による地域づくりの推進 |
| | 関連する施策 | — | — |
| 関連する個別計画 | 多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略 | | |
| 関連する報告書など | 平成29、30、令和元年度多摩市若者会議実施報告書 | | |
| 事業開始の経緯、 これまでの見直し・改善など | 若い世代の人口減少を抑制していくための取り組みとして、若い世代が「住みたい」と思えるようなまちづくりを進めていくため、「多摩市若者会議」を設置した。初年度(平成29年度)は、年4回のワークショップ等を通して、プロジェクトの検討を行い、市長へ実施報告書が提出された。平成30年度は報告書の内容に基づき、若者自らが「若者のまちづくり拠点」を設置するための活動支援に加え、新たな取り組みを継続検討するためのワークショップ及びフィールドワークを行った。 | | |

◇令和元年度の事業の実施内容

| | 事業開始の時期 | 平成29年度 |
|--------------------|--|--------|
| 事業の目的、 令和元年度の目標 | 若い世代の視点でまちの活性化を図るため、令和元年度は「①若者会議の継続実施による新たなプロジェクトの検討」、「②平成29年度若者会議で提案されたプロジェクトの企画、実践」を行う若者の活動を支援する。 | |
| 予算の執行方法 | ①若者会議の実施に係る経費(若者会議の消耗品、会場使用料、コーディネーター業務委託料等) ②平成29、30年度若者会議で提案されたプロジェクトの企画、実践に係る運営支援業務委託料 | |
| 事業の成果 | <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度からの3年間を通じて、のべ参加人数は735名となり、多くの若者が多摩市の魅力や課題について考え、活動したことにより、「多摩市と若者との接点」を作ることができた。 若者会議の取組をメディアで取り上げられた回数は34回にのぼり、若者がチャレンジできる場が存在すること自体が街の魅力であるとして「内外に向けたシティセールスの向上」につながった。 これまで若者会議に参加してきたコアメンバーを中心に地域課題の解決に向け、若者自らが独立・自走し、参加者を集め実践を継続する団体として法人化するなど、「現役世代の地域参加・行政参画のきっかけ」となった。 | |

◇事業にかかる費用

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
|------------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 決算額(単位:千円) | 0千円 | 0千円 | 957千円 | 3,286千円 | 3,375千円 | |
| 事業にかかる実コスト | 0千円 | 0千円 | 2,720千円 | 4,966千円 | 8,439千円 | |
| 内 訳 | 直接経費 | | | | | |
| | 国庫支出金 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | 都支出金 | 0千円 | 0千円 | 319千円 | 千円 | 0千円 |
| | 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | その他特定財源 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | 一般財源 | 0千円 | 0千円 | 638千円 | 3,286千円 | 3,375千円 |
| 間接経費 | | | | | | |
| 職員人件費 | 0千円 | 0千円 | 1,763千円 | 1,680千円 | 5,064千円 | |
| 《従事人員数》 | 0.00人 | 0.00人 | 0.20人 | 0.20人 | 0.59人 | |
| その他の人件費 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |

◇成果指標

| 指標の種類 | 指標について | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|------------------|---|----|---------|---------|-------|
| 活動指標 (アウトプット) | 【令和元年度まで】多摩市若者会議の開催数(会議及びフィールドワーク)、参加者数 【令和2年度】「若者のまちづくり拠点(未知カフェ)」を中心とした若者発意の事業実施数 | 目標 | 6回、350人 | 4回、200人 | 8事業 |
| | | 結果 | 6回、230人 | 6回、221人 | — |
| 成果指標 (アウトカム) | 【令和元年度まで】多摩市若者会議で企画・立案され、実行に至ったプロジェクト合計数(市の事業だけでなく、若者主体で実行に至ったプロジェクトも含む。) 【令和2年度】若者団体の開催する会議、イベント、事業への参加者数 | 目標 | 2事業 | 4事業 | 200人 |
| | | 結果 | 7事業 | 21事業 | — |

特記事項

令和元年度までは若者会議を開催することでどの程度の若者を巻き込み、その中からいくつ事業が起るかを成果指標としてきた。令和2年度以降は、若者団体の実施する事業の内容によって、地域や行政に参加する若者の人数が増減したかを成果指標として設定する。

◇自己点検

| 成果 推移 指標 | 今後の見通し | | 方 今 向 後 性 の | 今後の課題や方向性に関するコメント |
|----------------|--------|-------------|----------------------------|--|
| | 量 的 | 財 源 的 | | |
| A | B | C | イ | |
| | | | | 令和2年度以降は、第五次多摩市総合計画に掲げる目指すまちの姿である「みんなで楽しみながら地域づくりを進めるまち」の実現に向け、「合同会社Michi Lab」と協力・連携しながら、「現役世代の地域参加・行政参画の促進」に取り組む。 |

<若者のまちづくり推進事業>

◇ 執行状況及び成果等

平成29年度ワークショップ

| 開催日 | 会議内容 | 参加人数 | 平均年齢 |
|-------------|--|------|------------------|
| 平成29年6月16日 | 第1回若者会議 理想のまちや、魅力を生み出すためのアイデアを議論 | 54名 | 24.5歳 |
| 平成29年8月4日 | 第2回若者会議 アイデアの深掘りとフィールドワーク行程について議論 | 69名 | 24.7歳 |
| 平成29年8月21日 | フィールドワーク 多摩市内を4グループに分かれフィールドワーク | 33名 | — |
| 平成29年9月15日 | 第3回若者会議 これまでのアイデアをベースに、プロジェクトの具体化に向けて議論 | 50名 | 23.2歳 |
| 平成29年11月17日 | 第4回若者会議 実行委員が4つの提案に集約し、意見交換 | 79名 | 31.2歳 (年齢制限無) |

平成30年度ワークショップ

| 開催日 | 会議内容 | 参加人数 | 平均年齢 |
|-------------|-------------------------------------|------|------------------|
| 平成30年6月1日 | 第1回若者会議 昨年度の振り返りと今年度の方針の共有 | 53 | 27.3歳 |
| 平成30年7月6日 | 第2回若者会議 クラウドファンディング実現に向けてのアイデアソン | 37 | 25.1歳 |
| 平成30年8月31日 | 第3回若者会議 拠点の名称・立地の共有とフィールドワークの設計 | 26 | 26.6歳 |
| 平成30年9月22日 | フィールドワーク 多摩市内を3グループに分かれフィールドワーク | 23 | — |
| 平成30年11月16日 | 第4回若者会議 クラウドファンディングの報告と企画の深化 | 31 | 26.3歳 |
| 平成31年2月13日 | 第5回若者会議 今後(来年度)の若者会議の企画について | 60 | 31.7歳 (年齢制限無) |

令和元年度ワークショップ

| 開催日 | 会議内容 | 参加人数 | 平均年齢 |
|------------|--|------|-------|
| 令和元年5月30日 | 第1回若者会議 昨年度の振り返りと今年度の方針の共有 | 48 | 29.7歳 |
| 令和元年6月28日 | 第2回若者会議 拠点(未知カフェ)における取組のアイデアソン | 30 | 26.2歳 |
| 令和元年7月24日 | 第3回若者会議 市民の力での「まちづくり」について | 36 | 30.9歳 |
| 令和元年11月22日 | 第4回若者会議 未知カフェの今後について | 20 | 26.0歳 |
| 令和元年11月23日 | フィールドワーク 若者会議で出たアイデアを元に設定したコースでフィールドワーク | 16 | — |
| 令和2年1月20日 | 第5回若者会議 多摩市若者会議3年間を振り返って | 71 | 32.5歳 |

令和元年度に若者会議が計画し実行したプロジェクト(太字はメディアで取り上げられたプロジェクト)

| |
|--|
| 【未知カフェを活用した実行に至ったプロジェクト(11プロジェクト)】 未知カフェの運営/未知カフェの運営(コメンター以外)/多摩コミュニティビジネス交流会開催(共催) 東京ヴェルディ・日テレベレーザPV/サルベージパーティ/酒フェス/ワンコイン起業相談会/寄居若者会議との交流会/ プログラミングであそんじゃお/宿題・自由研究教室/模擬裁判体験教室 |
| 【公園・遊歩道を活用したまちづくりプロジェクト(3プロジェクト)】 Googleストリートビュー /多摩ニュータウン魅力実感イベントモバイル屋台初出張/多摩中央公園プレイスメイキング社会 実験 |
| 【地域イベントへの参画プロジェクト(7プロジェクト)】 ガーデンシティ多摩センターこども祭り/多摩ニュータウン魅力実感イベント/JSmile多摩八角堂ランタンフェス /KAOFES/多摩シャルソンJsmile/多摩八角堂クリスマスウィーク/多摩マイライフ包括支援協議会 |
| 【市外でのイベント参画プロジェクト(5プロジェクト)】 地域でマルチにはたらく、くらす展/全国まちづくり若者サミット(開催協力)/相模女子大学若者と地域の連携フォーラ ム/多摩コミュニティビジネス研究会/COG2019(入賞) |

事業カルテ (元年度決算)

企画課

02-01-07-955

ふるさとTAMA応援寄附金管理運営経費

◇事業の位置づけ等

| | | | | | |
|---------------------------|---|---------|---------|---|---|
| 事務の種類 | 自治事務 | 基礎となる法令 | 多摩市寄附条例 | | |
| 第五次総合計画 基本計画体系 | 目指すまちの姿 | — | | | |
| | 政策 | — | | | |
| | 施策 | — | | | |
| | 関連する施策 | — | — | — | — |
| 関連する個別計画 | 多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略 | | | | |
| 関連する報告書など | 「多摩市の財政状況(決算の概要)」 | | | | |
| 事業開始の経緯、 これまでの見直し・改善など | 平成27年度の国の制度改正以降、ふるさと納税の機運の高まりを受けて、本制度を市への来街促進に活用するため、寄附環境を整備(クレジット納付)し、返礼品の贈呈を開始した。その後、返礼品のメニュー数を拡大しながら、寄附件数・金額の増加に努めてきた。 | | | | |

◇令和元年度の事業の実施内容

事業開始の時期

平成27年度

| | |
|--------------------|--|
| 事業の目的、 令和元年度の目標 | 市への寄附(ふるさと納税)に対し、直接の訪問につながる返礼品や市の関係人口の増加につながる返礼品を設定することで、寄附文化の醸成とともに、市の魅力発信や来街促進を図る。令和元年度は、国の方針である返礼率30%(=返礼品調達金額/寄附金額)を厳守しながら、一層の来街促進を実現させるため、さらなる返礼品メニューの見直しと拡大を行っていく。 |
| 予算の執行方法 | ① 寄附金のクレジットカード納付システム及びふるさと納税ポータルサイト運営等に係る役員費 ② ふるさと納税の返礼(市外在住者個人のみ贈呈対象)に係る業務委託料 |
| 事業の成果 | 市への寄附(ふるさと納税)を通じて、市外在住者との接点を増やすことで、新たな交流を創出し、多摩市ならではの取り組みとして、「寄附金を通じた来街促進・地域資源の活用」を行った。また、地方税法の改正により、ふるさと納税の対象自治体となるための指定制度が創設され、多摩市は5月14日付で総務大臣が定める基準に適合した自治体として指定をされた。 |

◇事業にかかる費用

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
|------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 決算額(単位:千円) | 2,119 千円 | 3,014 千円 | 4,111 千円 | 3,957 千円 | 4,377 千円 | |
| 事業にかかる実コスト | 3,992 千円 | 4,865 千円 | 5,874 千円 | 5,637 千円 | 7,810 千円 | |
| 内 訳 | 直接経費 | | | | | |
| | 国庫支出金 | 1,600 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 都支出金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 地方債 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他特定財源 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 一般財源 | 519 千円 | 3,014 千円 | 4,111 千円 | 3,957 千円 | 4,377 千円 |
| | 間接経費 | | | | | |
| 職員人件費 | 1,873 千円 | 1,851 千円 | 1,763 千円 | 1,680 千円 | 3,433 千円 | |
| 《従事人員数》 | 0.20 人 | 0.20 人 | 0.20 人 | 0.20 人 | 0.40 人 | |
| その他の人件費 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | |

◇成果指標

| 指標の種類 | 指標について | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|------------------|---|----|--------|-------|-------|
| 活動指標 (アウトプット) | 返礼品メニュー数(期間限定の返礼品など、 年度内で終了した返礼品も含む) | 目標 | 25品 | 36品 | 36品 |
| | | 結果 | 35品 | 38品 | — |
| 成果指標 (アウトカム) | 市外在住の個人からの寄附件数 | 目標 | 140件 | 150件 | 160件 |
| | | 結果 | 274件 | 286件 | — |

特記事項

※令和元年度までの成果指標(アウトカム)は、「多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で別途設定している目標値と同様の指標・目標値を用いている。

◇自己点検

| | | | | |
|--------------------------------------|--------|-------------|----------------------------|-------------------|
| の 成 果 指 標 の 推 移 | 今後の見通し | | 方 今 向 後 性 の | 今後の課題や方向性に関するコメント |
| | 量 的 | 財 源 的 | | |
| A | B | A | イ | |

<ふるさとTAMA応援寄附金管理運営経費>

◇ 執行状況及び成果等

1 返礼品送付等業務委託実施状況

| | 事業者数 | 返礼品 メニュー数 | 送付 件数 | 返礼品送付委託費 |
|--------|------|--------------|----------|------------|
| 平成27年度 | 2事業者 | 6品 | 137件 | ¥1,875,920 |
| 平成28年度 | 3事業者 | 16品 | 178件 | ¥2,798,460 |
| 平成29年度 | 5事業者 | 25品 | 262件 | ¥3,945,830 |
| 平成30年度 | 6事業者 | 35品 | 269件 | ¥3,780,594 |
| 令和元年度 | 5事業者 | 38品 | 280件 | ¥4,173,198 |

2 寄附実績

| | 寄附件数 | 寄附金額 |
|--------|------|-------------|
| 平成27年度 | 149件 | ¥10,610,009 |
| 平成28年度 | 197件 | ¥12,389,683 |
| 平成29年度 | 276件 | ¥12,215,000 |
| 平成30年度 | 286件 | ¥64,453,309 |
| 令和元年度 | 295件 | ¥15,077,334 |

3 寄附実績（市外在住の個人からの寄附）

| | 寄附件数 | 寄附金額 |
|--------|------|-------------|
| 平成27年度 | 143件 | ¥10,019,000 |
| 平成28年度 | 186件 | ¥8,692,000 |
| 平成29年度 | 265件 | ¥10,377,000 |
| 平成30年度 | 274件 | ¥52,898,309 |
| 令和元年度 | 286件 | ¥14,500,000 |

02-01-09-097

青少年問題活動費

◇事業の位置づけ等

| | | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------------|---------------------------|---|---|---|
| 事務の種類 | 自治事務 | 基礎となる法令 | 地方青少年問題協議会法・多摩市青少年問題協議会条例 | | | |
| 第五次総合計画 基本計画体系 | 目指すまちの姿 | 子育て・子育てをみんなで支え、子どもたちの明るい声がひびくまち | | | | |
| | 政策 | A1 | 子どもを育てることがうれしいと思えるまちづくり | | | |
| | 施策 | 1 | 子どもの健やかな成長への支援 | | | |
| | 関連する施策 | A1-3 | A2-3 | - | - | - |
| 関連する個別計画 | かがやけ！多摩市子ども・子育て・わくわくプラン(多摩市子ども・子育て支援事業計画) | | | | | |
| 関連する報告書など | 多摩市青少年問題協議会報告書 | | | | | |
| 事業開始の経緯、 これまでの見直し・改善など | 東京都による青少年問題協議会の設置奨励及び地区委員会の設置指導を受け、昭和35年10月に「多摩村青少年問題協議会」を設置するとともに、昭和43年4月に3地域に「地区委員会」を設置し順次拡大を図った。昭和46年に地区委員会設置基準と善行青少年・青少年対策協力者表彰要綱を、さらに昭和62年に補助金交付要綱等を整備し、平成19年度には「多摩市青少年健全育成基本方針」を策定した。 | | | | | |

◇令和元年度の事業の実施内容

事業開始の時期

平成13年度以前

| | |
|--------------------|--|
| 事業の目的、 令和元年度の目標 | <p>青少年の健全育成を図るため、地域社会の中で青少年に関わる諸問題を検討・協議し、家庭・地域・学校・行政がそれぞれの役割に応じて活動し、また、連携・協力することで、青少年を取り巻く環境を整備することを目的とする。</p> <p>目標:①青少年問題協議会:青少年の総合的な施策と対策を検討し、青少年に関係する行政機関や団体に対して施策を提言するとともに、施策の効果的な実施のために連絡調整を図る。②地区委員会:地域団体や関係機関と連携し、各地域の特性に応じた人材等を活かすとともに、地域力による青少年の健全育成のための活動を支援する。③こども110番活動の支援など、その他青少年の健全育成環境を整備する。</p> |
| 予算の執行方法 | <p>①青少年問題協議会の運営に係る経費(委員報酬、研修講師謝礼、消耗品購入、表彰状筆耕、広報誌発行等)として執行した。②キャンペーン活動等、15地区委員会への活動費補助金(研修講師謝礼、啓発物品等購入、バス借上げ、地区委員会補助金等)として交付した。③多摩市こども110番連絡協議会の運営に係る経費(研修講師謝礼、消耗品購入)として執行した。</p> |
| 事業の成果 | <p>青少年健全育成委員会において、「ともに学び、楽しむ場を地域でつくるために」をテーマに審議を重ね、他の活動とともに進めることによって、青少年の健全育成に関わる環境整備が図られた。さらに、それぞれの活動を報告書としてまとめた。</p> |

◇事業にかかる費用

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 決算額(単位:千円) | 10,731 千円 | 10,937 千円 | 11,699 千円 | 11,307 千円 | 9,953 千円 | |
| 事業にかかる実コスト | 26,844 千円 | 26,871 千円 | 26,769 千円 | 25,672 千円 | 24,629 千円 | |
| 内 訳 | 直接経費 | | | | | |
| | 国庫支出金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 都支出金 | 612 千円 | 1,038 千円 | 1,509 千円 | 1,358 千円 | 1,195 千円 |
| | 地方債 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他特定財源 | 6 千円 | 8 千円 | 9 千円 | 61 千円 | 8 千円 |
| | 一般財源 | 10,113 千円 | 9,891 千円 | 10,181 千円 | 9,888 千円 | 8,750 千円 |
| 間接経費 | | | | | | |
| 職員人件費 | 15,922 千円 | 15,731 千円 | 15,070 千円 | 14,365 千円 | 14,676 千円 | |
| 《従事人員数》 | 1.70 人 | 1.70 人 | 1.71 人 | 1.71 人 | 1.71 人 | |
| その他の人件費 | 191 千円 | 203 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | |

◇成果指標

| 指標の種類 | 指標について | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|------------------|---|----|--|---|------------------|
| 活動指標 (アウトプット) | ①環境浄化、啓発活動等セーフティネットに関する事業 ②育成事業等コミュニティ形成に関する事業 | 目標 | ①110事業 ②160事業 | ①110事業 ②160事業 | ①110事業 ②160事業 |
| | | 結果 | H30地区委事業決算報告 ①103事業②157事業 合計 260事業 | R元地区委事業決算報告 ①110事業②155事業 合計 265事業 | — |
| 成果指標 (アウトカム) | ①環境浄化等事業参加者数 ②育成事業等事業参加者数 | 目標 | 46,000人 | 46,000人 | 45,000人 |
| | | 結果 | 同上①6,204人②34,797人 合計41,001人 | 同上①6,533人、②33,765人 合計40,298人 | — |

特記事項

—

◇自己点検

| | | | | |
|---------------------|----------------------------|------------------|----------------------------|-------------------|
| 成果 の 推移 指標 | 今後の見通し | | 方 今 向 後 性 の | 今後の課題や方向性に関するコメント |
| | ニ ー 量 メ ー ス | 財 一 源 般 | | |
| B | B | B | イ | — |

02-01-09-097

青少年リーダー育成事業

◇事業の位置づけ等

| | | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------------|-------------------------|---|---|---|
| 事務の種類 | 自治事務 | 基礎となる法令 | — | | | |
| 第五次総合計画 基本計画体系 | 目指すまちの姿 | 子育て・子育てをみんなで支え、子どもたちの明るい声がひびくまち | | | | |
| | 政策 | A1 | 子どもを育てることがうれしいと思えるまちづくり | | | |
| | 施策 | 1 | 子どもの健やかな成長への支援 | | | |
| | 関連する施策 | A1-3 | — | — | — | — |
| 関連する個別計画 | かがやけ！多摩市子ども・子育て・わくわくプラン(多摩市子ども・子育て支援事業計画) | | | | | |
| 関連する報告書など | — | | | | | |
| 事業開始の経緯、 これまでの見直し・改善など | これまでは旧青少年委員による青少年関連事業として実施してきたが、26年度をもってこの委嘱制度を見直し、人材育成に重点を置いた事業として実施する。27年度から事業予算は同じ健全育成を目的とする青少年問題活動費に編入した。 | | | | | |

◇令和元年度の事業の実施内容

事業開始の時期

平成27年度

| | |
|--------------------|--|
| 事業の目的、 令和元年度の目標 | 次代を担う子どもたちが、今後の地域活動の担い手となるリーダーに育成することを目的とする。市民による青少年活動サポーター(登録指導者の派遣制度)を活用し、集団での遊びや学びを通して社会性や自立心を養い、青少年リーダーとしての資質を向上させる。 |
| 予算の執行方法 | ①青少年活動サポーター謝礼として執行した。 ②事業に必要な消耗品等の購入として執行した。 |
| 事業の成果 | 多摩そば事業で派遣した青少年活動サポーターの活動を通して、子どもたちの手本となる青少年リーダーの育成が図られた。 |

◇事業にかかる費用

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | |
|------------|----------|----------|----------|----------|----------|--------|
| 決算額(単位:千円) | 304 千円 | 716 千円 | 817 千円 | 739 千円 | 157 千円 | |
| 事業にかかる実コスト | 3,114 千円 | 3,492 千円 | 3,461 千円 | 3,259 千円 | 2,732 千円 | |
| 内 訳 | 直接経費 | | | | | |
| | 国庫支出金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | 都支出金 | 24 千円 | 273 千円 | 335 千円 | 268 千円 | 35 千円 |
| | 地方債 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| | その他特定財源 | 6 千円 | 7 千円 | 9 千円 | 61 千円 | 8 千円 |
| | 一般財源 | 274 千円 | 436 千円 | 473 千円 | 410 千円 | 114 千円 |
| | 間接経費 | | | | | |
| 職員人件費 | 2,810 千円 | 2,776 千円 | 2,644 千円 | 2,520 千円 | 2,575 千円 | |
| 《従事人員数》 | 0.30 人 | 0.30 人 | 0.30 人 | 0.30 人 | 0.30 人 | |
| その他の人件費 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 | |

◇成果指標

| 指標の種類 | 指標について | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|------------------|----------------|----|--------|-------|-------|
| 活動指標 (アウトプット) | 青少年活動サポーター派遣人数 | 目標 | 55人 | 55人 | 55人 |
| | | 結果 | 95人 | 57人 | — |
| 成果指標 (アウトカム) | 派遣事業延べ参加者数 | 目標 | 800人 | 800人 | 800人 |
| | | 結果 | 1,084人 | 806人 | — |

特記事項

新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもフェスティバルは中止になった。

◇自己点検

| | | | | |
|--------------------------------------|--------|-------------|----------------------------|-------------------|
| の 成 果 指 標 の 推 移 | 今後の見通し | | 方 今 向 後 性 の | 今後の課題や方向性に関するコメント |
| | 量 的 | 財 源 的 | | |
| N | N | N | ウ | |

<青少年問題活動費>

◇執行状況及び成果等

1 多摩市青少年問題協議会の委員構成

合計34人（学識経験者10人、職による者9人、市民15人（うち公募0人））

2 多摩市青少年問題協議会委員会開催状況

| 年度 | 報酬支払額(円) | 開催状況 | | | | | |
|----|-----------|------------|----------|----------------|----------|---------|----|
| 27 | 2,386,100 | 本会議 会長会 | 2回 7回 | 健全育成委員会 その他 | 6回 1回 | 表彰選考委員会 | 2回 |
| 28 | 2,407,500 | 本会議 会長会 | 2回 7回 | 健全育成委員会 その他 | 6回 1回 | 表彰選考委員会 | 2回 |
| 29 | 2,321,900 | 本会議 会長会 | 2回 7回 | 健全育成委員会 | 6回 | 表彰選考委員会 | 2回 |
| 30 | 2,354,000 | 本会議 会長会 | 2回 7回 | 健全育成委員会 その他 | 6回 1回 | 表彰選考委員会 | 2回 |
| 元 | 2,396,800 | 本会議 会長会 | 2回 7回 | 健全育成委員会 その他 | 6回 1回 | 表彰選考委員会 | 2回 |

3 多摩市青少年問題協議会委員会提言・報告事項

| 年度 | 提言・報告事項 |
|----|---|
| 27 | <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成委員会：「青少年のインターネット利用に関するアンケート調査」の実施 ・表彰選考委員会「表彰者等の選考について」：善行表彰1名及び2団体、青少年協力者5名及び2団体 ・地区委員会会長会：合同研修会「子育て力を鍛えよう」、合同夜間パトロール（雨天中止）、あいさつ運動キャンペーン（719名）、会長会自主研修会 |
| 28 | <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成委員会：「青少年のインターネット利用に関するアンケート調査」の分析とその結果に基づいたリーフレットの作成 ・表彰選考委員会「表彰者等の選考について」：善行表彰6名及び2団体、青少年協力者4名及び2団体 ・地区委員会会長会：合同研修会「心と身体は食べ物から」、合同夜間パトロール（雨天中止）、あいさつ運動キャンペーン（雨天中止）、会長会自主研修会 |
| 29 | <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成委員会：「地域におけるこどもの見守りについて」をテーマとして議論を進め、提言をまとめる。 ・表彰選考委員会「表彰者等の選考について」：善行表彰2名及び1団体、青少年協力者2名及び2団体 ・地区委員会会長会：合同研修会「受け止めて！子ども達からのメッセージ」、合同夜間パトロール、あいさつ運動キャンペーン、会長会自主研修会 |
| 30 | <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成委員会：「青少年のインターネット利用に関するアンケート」の実施とその分析、さらにその結果に基づいたリーフレットの作成 ・表彰選考委員会「表彰者等の選考について」：善行表彰1団体、青少年協力者8名及び3団体 ・地区委員会会長会：合同研修会「涙も笑いも、力になる！」、合同夜間パトロール（雨天中止）、あいさつ運動キャンペーン（雨天中止）、会長会自主研修会 |
| 元 | <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成委員会：「ともに学び、楽しむ場を地域でつくるために」をテーマとして議論を進め、提言をまとめた。 ・表彰選考委員会「表彰者等の選考について」：善行表彰3名・2団体、青少年協力者6名 ・地区委員会会長会：合同研修会「おうちで伝える性のおはなし」、合同夜間パトロール（雨天中止）、あいさつ運動キャンペーン、会長会自主研修会 |

4 青少協だより「多摩のこども」新聞折込業務委託料

| 年度 | 折込回数 | 金額（円） |
|----|------|-------|
| 27 | 2 | 0 |
| 28 | 2 | 0 |
| 29 | 2 | 0 |
| 30 | 2 | 0 |
| 元 | 2 | 0 |

※平成27年度よりたま広報に折込みにて発行

5 多摩市青少年問題協議会地区委員会補助金

| 年度 | 団体数 | 金額（円） |
|----|-----|-----------|
| 27 | 15 | 5,041,229 |
| 28 | 15 | 5,105,801 |
| 29 | 15 | 5,153,857 |
| 30 | 15 | 5,055,384 |
| 元 | 15 | 4,800,814 |

事業カルテ (元年度決算)

児童青少年課

02-01-09-951

子ども若者育成支援事業

◇事業の位置づけ等

| | | | | | | |
|---------------------------|---|---------------------------------|---------------------------------|---|---|---|
| 事務の種類 | 自治事務 | 基礎となる法令 | 子ども・若者育成支援推進法、子どもの貧困対策の推進に関する法律 | | | |
| 第五次総合計画 基本計画体系 | 目指すまちの姿 | 子育て・子育てをみんなで支え、子どもたちの明るい声がひびくまち | | | | |
| | 政策 | A1 | 子どもを育てることがうれしいと思えるまちづくり | | | |
| | 施策 | 4 | 子ども・若者に対する多角的な支援 | | | |
| | 関連する施策 | A1-1 | A1-3 | - | - | - |
| 関連する個別計画 | かがやけ！多摩市子ども・子育て・わくわくプラン(多摩市子ども・子育て支援事業計画) | | | | | |
| 関連する報告書など | — | | | | | |
| 事業開始の経緯、 これまでの見直し・改善など | 平成22年に「子ども・若者育成支援推進法」が施行、平成28年に「子供・若者育成支援推進大綱」が決定され、平成29年度から児童青少年課に子ども・若者育成係を設置した。ひきこもりの若者(15才から概ね39才)とその家族を対象に講演会・個別相談会を実施した。個別相談会は、需要の増を見込み、平成30年度からは隔月、令和元年度からは毎月実施することとした。令和元年度から子ども食堂等への補助制度を開始した。 | | | | | |

◇令和元年度の事業の実施内容

事業開始の時期 平成29年度

| | |
|--------------------|---|
| 事業の目的、 令和元年度の目標 | ひきこもりについての理解を深め、相談者を支援機関等へつなげるため、講演会と個別相談会を実施する。子どもに食と交流の場を提供する地域の活動を支援するため、子ども食堂等に補助金を交付する。平成30年度に引き続き、子ども・若者に関する施策検討懇談会を開催し、今後の施策の方向性について、報告書を作成する。 |
| 予算の執行方法 | ひきこもりに関する講演会及び個別相談会の開催(委託料、消耗品) 子ども食堂事業への補助(補助金) 子ども・若者に関する施策検討懇談会の開催(委託料、委員謝礼) |
| 事業の成果 | ひきこもりなどの課題を抱える子ども・若者について、講演会で市民に周知するとともに、個別相談会の実施により若者の自立を支援した。子ども食堂等への補助により、身近な地域で子どもに食と交流の場を提供する取組を支援した。子ども・若者に関する施策について、今後の方向性を検討していくため、懇談会による検討内容をまとめた報告書を作成した。 |

◇事業にかかる費用

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|------------|---------|--------|---------|----------|----------|
| 決算額(単位:千円) | 0千円 | 0千円 | 227千円 | 675千円 | 2,864千円 |
| 事業にかかる実コスト | 0千円 | 0千円 | 6,396千円 | 10,756千円 | 13,163千円 |
| 内 訳 | 直接経費 | | | | |
| | 国庫支出金 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | 都支出金 | 0千円 | 0千円 | 113千円 | 330千円 |
| | 地方債 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | その他特定財源 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 |
| | 一般財源 | 0千円 | 0千円 | 114千円 | 345千円 |
| 間接経費 | | | | | |
| 職員人件費 | 0千円 | 0千円 | 6,169千円 | 10,081千円 | |
| 《従事人員数》 | 0.00人 | 0.00人 | 0.70人 | 1.20人 | |
| その他の人件費 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | 0千円 | |

◇成果指標

| 指標の種類 | 指標について | | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|------------------|--|----|--------|-------|-------|
| 活動指標 (アウトプット) | 【令和元年度まで】 個別相談会 開催回数(枠) | 目標 | 24枠 | 48枠 | 405人 |
| | 【令和2年度】 ひきこもり及び子どもの貧困に関する講演会 参加者数 | 結果 | 24枠 | 48枠 | — |
| 成果指標 (アウトカム) | 【令和元年度まで】 個別相談会 参加件数(世帯) | 目標 | 21世帯 | 39世帯 | — |
| | 【令和2年度】 目指す成果が指標で表すことが適当でない ため設定しない。 | 結果 | 17世帯 | 24世帯 | — |

特記事項

個別相談会は、令和2年度から福祉総務課の生活困窮者等支援事業に統合するため、活動指標を講演会の参加者数に変更する。

◇自己点検

| の 成 果 推 移 指 標 | 今後の見通し 量的 財一 源般 | 方今 向後 性の イ | 今後の課題や方向性に関するコメント |
|---------------------------------|--------------------------|---------------------|--|
| N | A | N | イ |
| | | | 子ども・若者に関する施策検討懇談会の報告書を踏まえ、「(仮称)多摩市子ども・若者総合支援条例」の制定に向けて検討し、子ども・若者の自立を多角的に支援するまちづくりを進める。 |

<子ども若者育成支援事業>

◇執行状況及び成果等

1. 執行状況

(円)

| | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-------|---------|---------|-----------|
| 講師謝礼 | 0 | 26,000 | 0 |
| 委員謝礼 | 0 | 178,800 | 190,600 |
| 需用費 | 0 | 29,590 | 17,858 |
| 事業委託費 | 226,800 | 440,640 | 1,386,160 |
| 補助金 | 0 | 0 | 1,269,000 |
| 合計 | 226,800 | 675,030 | 2,863,618 |

2. 事業実施状況

| | 事業名 | テーマ等 | 講師 | 参加人数 |
|--------|---------------|--|--|------|
| 平成29年度 | ひきこもりに関する講演会 | 自立に不安を感じるわが子が一歩を踏み出すために | NPO法人常務理事 | 47 |
| | 家族向けセミナー | ひきこもりの状況に対する具体的な対策 | ・同上NPO法人職員 ・元ひきこもり当事者 | 10 |
| | 個別相談会 | 8枠 | NPO法人職員 | 5 |
| 平成30年度 | ひきこもりに関する講演会 | ひきこもりからの脱出に必要なこと | NPO法人常務理事 | 43 |
| | | ひきこもりからの自立就労支援 | ・同上NPO法人職員 ・元ひきこもり当事者 | 48 |
| | 個別相談会 | 24枠（隔月×4枠） | NPO法人職員 | 17 |
| | 子どもの貧困に関する講演会 | 貧困で孤立する子どもたち | 首都大学東京教授 | 284 |
| 令和元年度 | ひきこもりに関する講演会 | 生きづらさを抱え孤立している状況から一歩踏み出すために ～ひきこもるココロを経験者が語る～ | 一般社団法人代表理事 | 148 |
| | | 一歩踏み出すきっかけを見つける合同説明会 ～ひきこもり等生きづらさに悩む方やそのご家族向け～ | ・NPO法人職員（パネルディスカッション） ・民間支援団体、公的支援団体（合同説明会） | 33 |
| | 個別相談会 | 48枠（毎月×4枠） | NPO法人職員 | 24 |
| | 子どもの貧困に関する講演会 | ※新型コロナウイルス感染症の影響により中止 | | — |